

千之子どもふるさと歴史教室『壬申の乱』と『宮代』の関連史跡を訪ねて
受講生が『宮代歴史新聞』を発行しましたので、その一部を掲載します。

宮代歴史新聞

宮代
小学校
6年1組

2021年
3月22日
発行

壬申の乱と宮代

壬申の乱は、天智天皇の死後の皇位をめぐって、天智天皇の弟（大海人皇子）と天智天皇の息子（大友皇子）との間でぼつ発した争いである。

大海人皇子の休憩場所？



大海人皇子が宮代に寄られた時に、小野さんのお屋敷で休まれた。その時よろいをかけたり、こしをかけて休んだりした石がある。そ

の二つの石は田辺さんのお宅の庭にあった。その石にさわるとお腹が痛くなると言われている。小野さんの先祖は、この時大海人皇子に勝栗をさしあげて、戦勝をいのったという。だから小野さんの家紋は、栗になっているそうだ。

大領神社と壬申の乱

その一「杉の本」

大海人皇子が、近江軍に取りかこまれてしまったとき、そばの大きな杉のもとが二つにわれてあながあき、その中へかくれることができ、それから勝ちいくさがつづいた。そこから「杉の本」の地名が生まれた。その杉の木の板を大領神社のご神体とした。



社説

大海人皇子がよろいをかけた石やこしをかけた石が宮代にあった事がとてもビックリした。また私達の身近にあった大領神社が歴史ある建築物だなんて初めて知ったので、これから宮代の宝物を大切にしていきたい。そして宮代の良さをたくさんの人に広げていきたい。



